

第4回 山梨県自転車活用推進計画策定委員会 議事録

○日 時：令和元年5月29日（水） 午後1時15分～午後3時30分

○会 場：ホテル談露館（1F：アンバー）

○出席者

・委員（敬称略、50音順）

今井久、今中大介、大山勲、鎌田誠一、絹代、長倉富貴、早川誠司

・事務局

県土整備部長、県土整備部理事、県土整備部技監、道路整備課長、道路整備課総括課長補佐、道路整備課道路企画監、道路整備課課長補佐、道路整備課職員、観光部主幹、観光企画課総括課長補佐、観光企画課職員、観光プロモーション課総括課長補佐、観光プロモーション課職員、観光資源課総括課長補佐、国際観光交流課総括課長補佐、国際観光交流課職員

・県関係等

リノベーション・パーク推進課職員、リニア推進課、交通政策課課長補佐職員、交通政策課職員、財産管理課職員、県有林課職員、治山林道課職員、エネルギー政策課職員、景観づくり推進室職員、道路管理課課長補佐、道路管理課職員、都市計画課課長補佐、教育委員会スポーツ健康課職員、県警本部交通企画課職員、県警本部交通規制課職員、甲府河川国道事務所計画課長、甲府河川国道事務所調査第二課長

○会議次第

1. 開 会

2. 議 事

(1) 報告事項について

・第3回委員会での意見と対応

(2) 計画の素案の内容について

・山梨県自転車活用推進計画(素案)(案)

(3) その他

3. 閉 会

○内 容

1. 開 会

司会：事務局

山梨県挨拶

- ・第3回委員会の意見をもとに山梨県自転車活用推進計画(素案)(案)としてとりまとめたため、ご意見をいただきたい。
- ・今後、パブリックコメントに出す予定である。

2. 議事

- ・北方委員、功刀委員は所用のため欠席である。

(1) 報告事項について

(2) 計画の素案の内容について

1) 資料1、資料2、資料3の観光分野の施策・取組まで

【委員】

- ・「サイクル王国やまなし」を目指すという知事の発言を実行に移すことが必要である。サイクルラックが県内随所に設置されてきており、県民の意識向上及びの県外利用者へのPRため、サイクルラックにサイクル王国やまなしを宣伝してはどうか。
- ・県や国の所有地にモニュメントを建ててもよいのではないか。オリンピックコースである三国峠などにモニュメント等を置いてはどうか。
- ・片山右京氏がオリンピックの自転車部門のスポーツマネージャー、JBCF（全日本実業団自転車競技連盟）の理事長だけでなく、やまなし大使にもなっているため、山梨県の取り組みに関わってもらうことも考えられる。

【事務局】

- ・オリンピックを契機に自転車への関心が高まることが考えられるため、市町村や関係団体と連携し活動していく。

【委員】

- ・山梨県内のオリンピックの機運醸成が低いのは残念である。「レガシー」は残ったものというイメージが強いが、大会前の盛り上がり的大事であるため、オリンピック前に実施できる取り組みを盛り込んでほしい。

【県関係】

- ・県民に対する機運醸成に引き続き取り組む。

【委員】

- ・7月21日に自転車のテストイベントが開催される。これまでにない規模でレースを行うため、PRにうまく活用してほしい。ツールドフランスや箱根駅伝以上の盛り上がりを目指して開催したい。

【委員】

- ・課題について、まちづくりのサイクルツーリズム、健康の広報部分等、以降の内容と整合するように再整理してほしい。
- ・基本方針について、まちづくりに自転車活用による地域振興を追加し、健康・スポーツについて「サイクルスポーツの振興」を加筆してもらいたい。
- ・施策3に、田舎（自然）を楽しむポタリングコースの設定、車の多い道路に走行空間を整備するだけでなく車の少ないルートを選定する。先進事例としては飛騨古川のガイドツアーの事例などがある。
- ・施策4に、山や自然を活用したサイクルツーリズムの検討を追加する。キャンプ＋自転車、宿泊施設＋自転車等、観光の魅力が増えるため、他のレジャーと連携したサイクルツーリズムの振興が考えられる。

【事務局】

- ・整合性を図る部分は今後相談させていただきながら修正する。観光の取組の追加について、具体の施策を追加するようにする。

【委員】

- ・目指すべき将来の姿について、県民の自転車の活用が薄く、観光の色が強いと思う。県民の方の計画であることを目立たせた方がよい。
- ・健康・スポーツ分野とオリンピックを連動してもよいと考える。
- ・車の少なく細い道をつなぐネットワークはあってよいと思う。
- ・施策3・4について、山梨ならではの田園風景などを打ち出したほうがよい。
- ・サイクルマップの作成を検討してほしい。

【委員】

- ・ 県民のみなさんに向けた表現をいれてほしい。県内の活性化や健康増進は目標である。
- ・ 田舎の活用・山梨の魅力を入れたサイクリングマップ等があるとよい。
- ・ ガイドツアーについては、富士山麓で e-bike と MTB 用の遊歩道が整備されている。

【委員】

- ・ ガイドツアーは都内でも盛んであるため、取り入れてほしい。

2) まちづくり環境分野の施策・取組

【委員】

- ・ 施策 3 の取組について、MTB を利用した地域の維持とした方がよい。
- ・ 自然環境でのルール作りを取組に追加してほしい。地権者や地域住民・県・市町村・自転車利用者での協議の場を持ったほうがよい。
- ・ 地域の住民と裏道を通るルートを考えるものとして、住民が日常的に楽しめるモデルルートの検討(住民による地域資源の発見)できるとよい。

【委員】

- ・ 地域での自転車活用事例として、新潟県での事例がある。
- ・ 曜日やコースを決めて利用するなど、フィールドを持っている事例は多数あると思う。

【委員】

- ・ 先進事例を追加してはどうか。

【委員】

- ・ サイクリング＝レジャーというイメージがあるため、サイクリングを前面に出さないほうがよい。
- ・ 市町村のネットワーク計画の策定を推進・支援することを示してはどうか。
- ・ 施策 2 は、県民の誰もが使える自転車通行空間の整備であることを示した方がよい。
- ・ 自転車ピクトグラムヘルメットの形状はかっこよくしてほしい。

【委員】

- ・観光での訪問は、7割が自動車利用である。レンタサイクルの支援をした方がよいのではないか。

【委員】

- ・オリンピックは、地元の住民が盛り上がらないと全体として盛り上がらない。
- ・施策3で地域との連携を図るには社会貢献が重要である。例えば、青木ヶ原樹海のような名所を走らせることで自殺抑止もつながり、地域の理解が得られ、コミュニティーが育っていくのではないか。

【委員】

- ・青木ヶ原樹海は、ガイドツアーをおこなえば、魅力的なルートとして紹介することが可能である。
- ・県民のみなさんに知っていただくためにも「サイクル王国やまなし」をPRしていくことがよいと考える。オリンピックに合わせて自転車利用が増加するようになるとよい。サイクリングレースを見ていただくことも有効である。

【委員】

- ・計画の目標について、安全・防災や健康・スポーツの記載を変えてはどうか。
- ・施策1は「周知の検討」では表現が弱いと思われる。
- ・サイクルスポーツ＝自転車競技となるとハードルが高い。フィットネスやスポーツ程度の表現がよい。
- ・P32のパンフレットの事例の表現は再度チェックする必要がある（脂肪→体脂肪など）。
- ・計画の短期は来年までの計画となっている。中期・長期がどのくらいか示されていない。ビジョンを盛り込んだ方がよい。
- ・実施主体がどの程度決まっているか。
- ・確実に実行できるものかをわかるものにした方がよい。

3) 安全・防災、健康スポーツ分野の施策・取組、推進体制等

【委員】

- ・健康スポーツの施策2の自転車競技施設について、新設することはないのか。公園の中に自転車利用場所を整備する等が考えられるのではないのか。

【委員】

- ・BMXのコースは公園に作る等、各地で行われている。

【委員】

- ・利用されていない都市公園等に整備することが考えられる。子供の自転車利用人口を増やすことができる。

【委員】

- ・モータースポーツのイベントで自転車を紹介したところ、子供への反響が大きかった。子供が楽しめるイベント・場所があるとよい。

【委員】

- ・スクラム甲府が一つの手段ではないか。

【委員】

- ・民間で行っているMTB講習等を行政で支援してほしい。
- ・P33のMTBの事例がP28と同じとなっている。山梨は山岳地帯という資源があるため、世界のMTB乗りが集まる聖地とすることも考えられる。
- ・ルールづくりは健康・スポーツの方がよいかもしれない。

【委員】

- ・サイクルスポーツの事例はMTBではなくBMXでもよいかもしれない。

【委員】

- ・部署を横串として、施策が実施されていることを確認する県の組織が必要ではないか。スポーツコミッションが国の施策として行われ始めている。2021年までに150自治体で整備する目標としており、40以上の自治体で整備されている。スポーツコミッションを立ち上げる予定か、または施策として盛り込めないか。

【事務局】

- ・H27・28年に庁内で検討したが、設立まで至らなかった。観光部ではスポーツに関する問い合わせに対してワンストップで対応できるよう、スポーツコンシェルジュの仕組みを設けている。富士の国やまなしを全力で走るサイトの中で紹介している。

【事務局】

- ・H27・28の検討内容は、観光に特化しており、スポーツコミッションそのものの検討ではない。

【委員】

- ・県の戦略的な施策として、県主導で体制を整えることもレガシーであると思う。スポーツコミッションの取り組みを入れ込んでほしい。

【委員】

- ・エリアの図について、点線は検討中とのことであるが、なるべく全県を網羅した方がよい。大月・都留エリアには上野原から笹子まで入れた方がよい。丹波山・小菅エリアも大菩薩を含めた方がよい。甲府の北部も広域林道があるためエリアを設けた方がよい。

【委員】

- ・施策2の自転車競技施設について、境川自転車競技場では自転車の活用が多くなってきている。競技場は一般の方も利用できることをPRしてほしい。

(3) その他

- ・本委員会での意見を反映したものを委員の方に確認いただいたうえ、今井委員長承認をもってパブリックコメントにかける。
- ・パブリックコメントを実施し、その結果を受けて次回の委員会を実施する。

3. 閉会

- ・第5回委員会は、8月下旬を予定している。

以上